

別表2

動物看護科 教育課程

区分	科目名			1年		2年		合計		実務経験 担当教員		
	分野	学習目標/大科目名	科目	単位	時間	単位	時間	単位	時間			
(専門基礎分野)	基礎動物看護学	動物の体と構造と機能を理解する	動物形態機能学Ⅰ	1	30			5	150			
			動物形態機能学Ⅱ	1	30							
			動物形態機能学Ⅲ	1	30							
			動物形態機能学Ⅳ	1	30							
			動物繁殖学	1	30							
		疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ	動物病理学			1	30			6	180	
			動物薬理学Ⅰ	1	30							
			動物薬理学Ⅱ	1	30							
			動物感染症学Ⅰ	1	30							
			動物感染症学Ⅱ	1	30							
	人と動物の調和に関わることを学ぶ	動物看護学概論Ⅰ	1	30			8	240				
		動物看護学概論Ⅱ	1	30								
		動物医療関連法規	1	30								
		公衆衛生学Ⅰ	1	30								
		公衆衛生学Ⅱ	1	30								
		動物人間関係学			1	30						
		動物福祉・倫理	1	30								
		動物行動学	1	30								
		伴侶動物学Ⅰ	1	30								
		伴侶動物学Ⅱ	1	30								
	様々な動物の特性と人との関わりを理解する	産業動物学			1	30	5	135				
		実験動物学			1	15						
		野生動物学			1	30						
		動物内科看護学	1	30								
		動物外科看護学Ⅰ	1	30								
	動物の臨床看護に必要な知識を修得する	動物外科看護学Ⅱ	1	30			8	240	○			
		動物臨床看護学総論	1	30					○			
動物臨床看護学各論Ⅰ				1	30							
動物臨床看護学各論Ⅱ				1	30							
動物臨床看護学各論Ⅲ				1	30							
動物臨床看護学各論Ⅳ				1	30							
動物病院業務に必要な知識を修得する		動物臨床栄養学Ⅰ	1	30					5	150		
		動物臨床栄養学Ⅱ			1	30						
		動物臨床検査学Ⅰ	1	30								
		動物臨床検査学Ⅱ	1	30								
	動物医療コミュニケーション	1	30									
必須科目(専門基礎分野)計				27	810	10	285	37	1,095			
(専門科目)	実習	修得した知識の実践力を身につける	動物形態機能学実習Ⅰ	1	30			17	555			
			動物形態機能学実習Ⅱ	1	15							
			産業動物学実習			1	15					
			動物内科看護学実習Ⅰ	1	30							
			動物内科看護学実習Ⅱ			1	30					
			動物内科看護学実習Ⅲ			1	30					
			動物臨床検査学実習Ⅰ	1	30							
			動物臨床検査学実習Ⅱ	1	30							
			動物臨床検査学実習Ⅲ	1	30							
			動物外科看護学実習Ⅰ	1	30							
			動物外科看護学実習Ⅱ			1	30					
			動物外科看護学実習Ⅲ			1	30					
			動物臨床看護学実習Ⅰ			1	15					
			動物臨床看護学実習Ⅱ			1	30					
			動物看護総合実習Ⅰ	1	45							
			動物看護総合実習Ⅱ			1	90					
動物看護総合実習Ⅲ			1	45								
必須科目(専門基礎分野)計				8	240	9	315	17	555			
必須科目(専門基礎分野+専門分野)計				35	1,050	19	600	54	1,650			
(社会人基礎分野)	社会の中で自分の役割を考える	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ	1	30			1	30			
			キャリアデザインⅡ	1	30			1	30			
		ボランティア活動	ボランティア活動Ⅰ	1	30			1	30			
			ボランティア活動Ⅱ			1	30	1	30			
	社会人として必要なビジネス能力	損害保険学	損害保険学	1	30			1	30			
			基本IT技術			1	30	1	30			
	社会人として持つべき基礎的教養	イベントプロデュース	イベントプロデュース	1	30			1	30			
			社会常識			1	30	1	30			
		日本文化	日本文化	1	30			1	30			
			ビジネス文章力			1	30	1	30			
		コミュニケーション	ビジネス文章力Ⅰ	1	30			1	30			
			コミュニケーション学			1	30	1	30			
		プレゼンテーション	プレゼンテーション学			1	30	1	30			
		環境整備	環境衛生学	1	30			1	30			
	フィットネス	フィットネス	1	30			1	30				
	専門を深める	動物飼育実習	動物飼育実習Ⅰ	1	30			1	30	○		
動物飼育実習Ⅱ					1	30	1	30	○			
動物飼育実習Ⅲ					1	30	1	30				
動物看護師総合学		統一試験対策Ⅰ			1	30	1	30				
		統一試験対策Ⅱ			1	30	1	30				
必須科目(社会人基礎分野)計				10	300	11	330	21	630			
選択科目(社会人基礎分野)計			アニマルヘルパー			1	30	2	60			
必須科目+選択科目 総計				46	1,380	31	960	77	2,340			

・単位と時間の関係は 講義は15～30時間/単位(自宅学習を含む)のもの、実習は15～45時間/単位のものに分かれる

・科目履修(単位)認定の要件: 80%以上の出席 および 期末試験 60点以上を基本とするが、科目により実技試験、あるいはレポートに換える場合もある

・卒業の要件: 必須科目75単位(2,280時間)以上の履修

2019年度 シラバス

科目名	動物外科看護学 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・創傷の種類と治癒過程、管理方法を理解する。 ・ドレーンの装着、管理方法について理解する。 ・止血法について理解する。 ・骨折・脱臼の管理について理解する。 ・術前検査について理解する。 ・無菌の処置の重要性について理解する。 ・手術器具、手術衣、リネン類の準備・滅菌について理解する。 ・手術室お機器類、準備について理解する。 ・器械台の準備について理解する。 ・動物の適切なポジショニングについて理解する。 ・術野の消毒について理解する。 ・麻酔リスクの評価について理解する。 ・麻酔前投与について理解する。 ・注射麻酔・吸入麻酔について理解する。 ・導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する。 ・麻酔監視項目の監視方法、意義について理解する。 ・麻酔記録の作成法を理解する。 ・代表的な手術器具、縫合材、歯科器具の名称・分類、使用法を理解する。 ・直接補助、関節補助の内容について理解する。 ・麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて理解する。 ・疼痛管理の意義・方法について理解する。 ・術創管理、包帯法について理解する。 ・退院時の注意点、飼い主への説明事項について理解する。 ・エマーゼンシーの原因、病態について理解する。 ・一次救命処置と二次救命処置について理解する。 ・気管内挿管、心肺蘇生の方法について理解する。 ・理学療法の目的と意義について理解する。 ・代表的な理学療法の原理、手技について理解する。 							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」,インターズー出版「動物看護実習テキスト(第2版)」 参考書:インターズー出版「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 動物外科看護技術」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 外科診療補助に必要な基礎知識を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容			備考			
第1回	動物外科看護技術総論	外科診療時の補助に必要な技術			P2~5			
第2回	手術前の動物に必要な情報、飼い主に必要な指示	手術前動物の管理(術前管理)、術前評価 リネン類等の種類と準備			P7、P13~14 実習テキストP228~231			
第3回	滅菌と消毒	無菌操作の重要性、器具の管理			P14~16			
第4回	手術室の環境管理 手術施設、設備の準備と管理	手術室の準備、手術室の片付け			P16~20			
第5回	手術チーム・術者に必要な準備①	麻酔の導入、動物の準備(気管内挿管)、術中(外回り)			P21~26、P30 P62~66			
第6回	手術チーム・術者に必要な準備②	術者準備(手洗い・手指消毒、ガウン装着)			P26~29			
第7回	手術チーム・術者に必要な準備③	術者準備(手袋装着)			P26~29			
第8回	手術器具の準備と基礎知識①	1.メス・剪刀 2.鉗子			P45~50、P53			
第9回	手術器具の準備と基礎知識②	3.鑷子 4.縫合道具			P45~50、P53			
第10回	手術器具の準備と基礎知識③	5.その他の器具(タオル鉗子、開創器) 6.電気メス			P45~50、P53			
第11回	手術器具の準備と基礎知識④	8.歯科器具			実習テキスト:P241~243			
第12回	消耗品管理の重要性	縫合糸と縫合針、ドレープの種類			P50~53			
第13回	術前の動物管理と看護	麻酔前評価について			P54~55			
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて学期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2019年度 シラバス

科目名	動物外科看護学Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・創傷の種類と治癒過程、管理方法を理解する。 ・ドレーンの装着、管理方法について理解する。 ・止血法について理解する。 ・骨折・脱臼の管理について理解する。 ・術前検査について理解する。 ・無菌的処置の重要性について理解する。 ・手術器具、手術衣、リネン類の準備・滅菌について理解する。 ・手術室お機器類、準備について理解する。 ・器械台の準備について理解する。 ・動物の適切なポジショニングについて理解する。 ・術野の消毒について理解する。 ・麻酔リスクの評価について理解する。 ・麻酔前投与について理解する。 ・注射麻酔・吸入麻酔について理解する。 ・導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する。 ・麻酔監視項目の監視方法、意義について理解する。 ・麻酔記録の作成法を理解する。 ・代表的な手術器具、縫合材、歯科器具の名称・分類、使用法を理解する。 ・直接補助、関節補助の内容について理解する。 ・麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて理解する。 ・疼痛管理の意義・方法について理解する。 ・術創管理、包帯法について理解する。 ・退院時の注意点、飼い主への説明事項について理解する。 ・エマージェンシーの原因、病態について理解する。 ・一次救命処置と二次救命処置について理解する。 ・気管内挿管、心肺蘇生の方法について理解する。 ・理学療法の目的と意義について理解する。 ・代表的な理学療法の原理、手技について理解する。 							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」、インターズー出版「動物看護実習テキスト(第2版)」 参考書:							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 外科診療補助に必要な基礎知識を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	手術チームの準備③	麻酔導入(麻酔前投与と麻酔薬)				P30~31		
第2回	手術チームの準備④	麻酔導入(麻酔前投与と麻酔薬)、麻酔記録				P30~31		
第3回	術中の動物管理と看護①	各モニターにおける正常と異常(a. 心電図)				P58~59		
第4回	術中の動物管理と看護②	各モニターにおける正常と異常 (b. 血圧 c. パルスオキシメーター d. カブノメーター)				P60~62		
第5回	術中の動物管理と看護③	各モニターにおける正常と異常(e. 体温) 五感を使った麻酔モニター						
第6回	覚醒補助 術後管理	覚醒とは、補助について 動物看護記録とは、術後の栄養管理				P31~33、P34~39		
第7回	痛みの管理	痛みの指標				P38~39		
第8回	衛生管理①	外傷・創傷管理 術層保護に必要な知識、創傷管理のための器材(ネット、カラー等)				P42~44		
第9回	衛生管理②	術層保護に必要な知識、創傷管理のための器材(ネット、カラー等)				P42~44		
第10回	理学療法の基礎知識①	リハビリテーションの中の運動療法としての理学療法①				P207~213		
第11回	理学療法の基礎知識②	リハビリテーションの中の運動療法としての理学療法②				P207~213		
第12回	救急救命処置①	生命徴候のアセスメント				※12/26、27 ‘ペットファーストエイド’講座にて		
第13回	救急救命処置②	救命方法の知識①				※12/26、27 ‘ペットファーストエイド’講座にて		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて学期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2019年度 シラバス

科目名	動物外科看護学実習 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	手術準備(動物・手術器具)、術中・術後管理、麻酔準備や麻酔管理や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・手術器具・リネン類の準備、滅菌ができる。 ・手術に必要な機器、器械台を準備できる。 ・手術台への動物の固定、術野の消毒ができる。 ・手洗い、手術衣や手袋の装着ができる。 ・麻酔器やモニター機器の接続、使用することができる。 ・麻酔記録をつけることができる。 ・直接補助・間接補助ができる。 ・歯科器具の取り扱いを理解し、歯科処置の補助ができる。 ・術後の創傷管理ができる。 ・動物に包帯を装着できる。 ・抜糸の補助ができる。 ・気管内挿管ができる。 ・心肺蘇生を補助できる。 							
受講条件	実習着着用							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」,インターズー出版「動物看護実習テキスト(第2版)」 参考書:インターズー出版「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 動物外科看護技術」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 手術準備や術中・術後管理等の各種技法や手順を説明できる。 2. 救急救命の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 手術準備や術中・術後管理等の各種技法を適宜実施できる。 2. 救急救命の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	リネン類のたたみ方	手術衣・ドレープ類を準備し、滅菌することができる						
第2回	手術室準備・気管内挿管	手術室の準備を行うことができる 気管内挿管の準備・補助ができる						
第3回	手指消毒・ガウン装着①	手指消毒・手術着装着が正しくできる						
第4回	手指消毒・ガウン装着②							
第5回	手袋装着①	closed cuff methodで3分以内に手術手袋を装着できる						
第6回	手袋装着②							
第7回	各種器械使用方法	各種手術器械が正しく使うことができる						
第8回	手術器具準備・器具滅菌	手術器具の準備・滅菌ができる						
第9回	救急救命処置 I ③	救命方法の知識の実践①				※12/26, 27 'ペットファーストイイ'講座にて		
第10回	救急救命処置 I ④	救命方法の知識の実践②						
第11回	救急救命処置 I ⑤	救命方法の知識の実践③						
第12回	救急救命処置 I ⑥	救命方法の知識の実践④						
第13回	救急救命処置 I ⑦	救命方法の知識の実践⑤						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹		実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/				

2019年度 シラバス

科目名	動物飼育実習 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	伴侶動物学 I 学んだ知識を用いて正確性、迅速性を身につけ、飼育を行うことができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 本校飼育動物の適正と言われる飼育について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	事前準備 1	飼育を取りかかる前の確認				講義		
第2回	飼育時の留意点 1	飼育時の留意点を確認						
第3回	協働で質の高い飼育を目指す	伴侶動物学で学んだ知識を用いて、正確性、迅速性を身につける						
第4回	動物福祉を意識し質の高い飼育を目指す	伴侶動物学で学んだ知識を用いて、正確性、迅速性を身につける また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
第5回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 1							
第6回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 2							
第7回	チームを意識した高い飼育を目指す 1							
第8回	チームを意識した高い飼育を目指す 2							
第9回	コミュニケーションを活かし質の高い飼育を目指す 1							
第10回	コミュニケーションを活かし質の高い飼育を目指す 2							
第11回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 1							
第12回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 2							
第13回	試験の説明・準備					今まで勉強したことを踏まえ、その動物の飼育についてのポスターを作る		
第14回	試験準備							
第15回	期末試験 (発表)	まとめたポスターを用いて、その動物の飼育についての発表を行う				※飼育は当番学生のみで行う。		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S): 100点~90点
小テスト							-	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D): 69点~60点
発表・作品	○	○	○	○			40	不可 (E): 59点以下
演習			○	○	○		30	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2019年度 シラバス

科目名	動物外科看護学実習Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	手術準備(動物・手術器具)、術中・術後管理、麻酔準備や麻酔管理や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・手術器具・リネン類の準備、滅菌ができる。 ・手術に必要な機器、器械台を準備できる。 ・手術台への動物の固定、術野の消毒ができる。 ・手洗い、手術衣や手袋の装着ができる。 ・麻酔器やモニター機器の接続、使用することができる。 ・麻酔記録をつけることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・直接補助・間接補助ができる。 ・歯科器具の取り扱いを理解し、歯科処置の補助ができる。 ・術後の創傷管理ができる。 ・動物に包帯を装着できる。 ・抜糸の補助ができる。 ・気管内挿管ができる。 ・心肺蘇生を補助できる。 							
受講条件	実習着着用							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」、インターズー出版「動物看護実習テキスト(第2版)」 参考書:インターズー出版「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 動物外科看護技術」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 手術準備や術中・術後管理等の各種技法や手順を説明できる。 2. 救急救命の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 手術準備や術中・術後管理等の各種技法を適宜実施できる。 2. 救急救命の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	救急救命処置Ⅱ①					2年次に行われる 救急救命セミナーにて		
第2回	救急救命処置Ⅱ②							
第3回	救急救命処置Ⅱ③							
第4回	救急救命処置Ⅱ④							
第5回	手術準備	手術台への動物の固定や器械台の準備、術野の消毒ができる						
第6回	麻酔器・各種モニター装着	麻酔器の接続やモニター機器を動物に接続することができる						
第7回	術中補助	直接補助(手術助手・器械の受け渡しなど)ができる 関節補助(无影灯や手術台の操作など)ができる						
第8回	歯科処置準備・補助	歯科器具の取り扱い方を理解し、歯科処置(歯石除去など)の補助ができる						
第9回	衛生管理	術後の創傷管理(ネット・カラー装着なども含む)ができる						
第10回	手術見学:事前学習<<グループワーク>>	手術見学において、必要なことを考え準備ができる						
第11回	手術見学:事前準備	手術見学で行われる手術に必要なものを準備することができる						
第12回	手術見学	実際に手術を見学する						
第13回	手術見学:事後学習	前回行った手術について振り返りを行う						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹		実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/				

2019年度 シラバス

科目名	動物飼育実習Ⅱ	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	2年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. エキゾチックアニマルの飼育についての飼い主からの質問に、グループとして適切な解答ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. グループでコミュニケーションをとり、事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容			備考			
第1回	個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	観察力アップから質の高い飼育を目指す							
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回	自己評価から質の高い飼育を目指す							
第11回								
第12回								
第13回								
第14回	飼育実技試験							
第15回								
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			